

富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合
消防組織再編整備計画
(公共施設等総合管理計画)

平成30年1月

令和3年6月 改訂

富岡甘楽広域消防本部

目 次

第1章	消防組織再編整備計画（公共施設等総合管理計画）	
1	計画策定の背景・目的	1
2	当消防本部の現状と課題	2
	（1）平常時出動体制について	2
	（2）緊急消防援助隊出動体制について	2
	（3）市町村の消防の連携・協力について	2
3	再編整備の必要性・緊急性	3
4	消防施設の現況	4
5	類似団体との比較	5
6	管内人口の現況と課題	6
7	消防施設の管理に係る基本的な方針	7
	（1）今後の施設更新に係る費用試算	7
	（2）施設更新スケジュール	8
	（3）計画期間における財政推計	9
8	フォローアップの実施方針	10
第2章	個別施設計画	
1	計画の位置付け	11
2	対象となる施設等	11
3	計画期間	11
4	統廃合後の各署の配置	11
5	施設建設スケジュール	12
6	消防施設の概要	12
	（1）甘楽分署	12
	（2）消防本部	12
	（3）南牧分署	13
	（4）下仁田分署	13
	施設概要表1	14
	施設概要表2	15
	施設概要表3	16
	施設概要表4	17
7	人員及び車両の再整備	18

第1章 消防組織再編整備計画（公共施設等総合管理計画）

1 計画策定の背景・目的

富岡甘楽広域消防本部（以下「当消防本部」という。）が発足して、間もなく半世紀が経過しようとしている。社会情勢や人口動態の大幅な変化が怒涛の勢いで迫りくる状況下において、また東日本大震災や関東・東北豪雨、熊本地震といった広域的な大災害がいつ何時わが身に降りかかるかと懸念を抱く昨今、消防行政に対する地域住民の期待や要望は、日々増加の一途をたどっていることは言うに及ばない状況にある。

こうした期待に応えるべく、消防行政もその時々にあった施策を遂行していかなくてはならない。大規模地震の発生源となりうる関東平野北西縁断層帯、全国平均を大幅に上回るスピードで進行する高齢化地域、世界遺産である富岡製糸場及び荒船風穴を管轄する当消防本部において、大規模災害の発生や社会構造の変化、人口問題、ひっ迫する財政事情等の諸問題に対応していくためには、分散している現状の消防力を効率的かつ効果的に再配備することが、地域住民の社会生活を営む上で最も重要な安心・安全な暮らしのさらなる向上へ導くための喫緊の課題であるとの結論に至った。

おりしも、当消防本部では今後の消防行政における課題を検討するべく、平成24年度より組合構成市町村の議会議長、代表区長、消防団長等有識者を委員とした消防組織検討委員会を設置し議論を重ねてきた。この検討委員会から提出された答申に基づき、組合構成市町村長の了承のもと平成27年12月に富岡甘楽広域市町村圏振整備組合消防組織再編計画（以下「再編計画」という。）を策定し、新たな消防体制の構築に向けた取り組みを始めることとなった。

再編計画には、現状の消防力を適切に維持しながら諸問題を解決するための方策として、新たな人員配置や消防施設の移転を含めた統廃合による当消防本部の組織再編の必要性が盛り込まれており、この再編計画を基本計画として位置づけ、再編計画の内容を具体的に実行するための行動計画となる消防組織再編整備計画（公共施設等総合管理計画）を平成30年1月に策定した。

なお、本計画については、社会情勢や当消防本部の体制の変化などにより、よりふさわしい内容とすることが必要となったときには、その都度改訂を行っていくこととした。

2 当消防本部の現状と課題

平成29年4月1日現在、当消防本部は1本部2消防署4分署1分遣所において、職員142人（令和3年4月1日現在138人）を配置し各種消防事務や出動体制の確保を図っているところであるが、管轄内での各種出動事案はもとより、大規模火災、大規模地震、豪雨災害、火山災害、テロ災害等の複雑かつ多様化する災害に適切に対応するにあたり、消防力の分散化が顕著な状態であることは否めず早急な対策が必要となっている。

現状の消防体制における具体的な課題を、以下のとおり示す。

(1) 平常時出動体制について

当消防本部の現状の出動体制を考察した場合、消防力の整備指針に則った車両配備数に対して搭乗人員が十分に確保できておらず、管轄内の一次事案に出動した後の二次事案に対して、管轄外の他の署所から出動するといった出動体制が常態化している現状にある。

(2) 緊急消防援助隊出動体制について

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓として全国の消防機関による応援を速やかに実施するため平成7年度に創設され、当消防本部も国及び県からの要請により令和3年4月1日現在、消火部隊4隊、救急部隊3隊、後方支援隊1隊の計8隊を緊急消防援助隊出動車両として登録している。

近県にて大規模災害発生時には、群馬県隊として迅速出動要請が下命されることとなるが、出動後の人員不足から非番者の招集が整うまでの間において一時的に、各署所の閉庁を余儀なくされるといった懸念が生じることとなる。

(3) 市町村の消防の連携・協力について（消防の広域化に向けた準備）

平成18年消防庁告示第33号において「市町村の消防の広域化に関する基本指針」が示された。また、消防の広域化にはなお時間を要する地域においても、消防力を強化していくため平成29年消防庁長官通知「消防の連携・協力の推進について」において、広域化に向けた下地が作られるよう消防の連携・協力の推進期間を令和5年4月1日までと設定している。

消防の連携・協力の具体例として、指令の共同運用、高度専門的な違反処理や特殊な火災原因調査等の予防業務の連携・協力、専門的な人材育成の推進等が明記されているが、こうした連携・協力を推進するうえでは、長期派遣や研修を伴う人的交流が必要・不可欠な要素となる。しかしながら、当消防本部の現在の署所人員配置状況では、事案に出動する隊員の確保が限度であり派遣等に係る人的余力がない状況にある。

3 再編整備の必要性・緊急性

前項2において提示したとおり、当消防本部の課題として通常災害時はもとより大規模災害発生時の機能的かつ効果的な対応をするための人員、また広域化に向けた消防の連携・協力に必要な人員の確保が急務であり、消防力の分散した現状の消防体制を早急に是正する必要があるとの認識を得た。

これらの課題を解決する方策として、各署所に配置する人員を増員することが最も有効な手段であることは疑う余地がない。しかしながら、今後の当消防本部管轄地域の社会構造や人口動態、財政的な諸問題を勘案した場合、現在の署所数のまま人員増を図るといった手段は現実的に難しく、現有の職員の効率的な再配置を検討することにより、各署所の人員不足を解消しなければならないとの結論に至った。

そこで、当消防本部では現状の7署所を4署に集約する統廃合を実施し、今後の消防行政を担ううえで必要となる消防力を維持することを目的として、新たな署及び人員の再配備に向けた消防施設の再編整備を早急を実施することとした。

再編整備の概要

【現状7署所①】

平成29年4月1日現在

本部・署所名	配置人員	配置車両
消防本部	33人	11台（指揮車等3・普通車両8）
富岡消防署	42人	9台（消防車等6・救急車3）
甘楽分署	13人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
一ノ宮分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
妙義分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
下仁田消防署	11人	4台（消防車2・救急車1・連絡車1）
南牧分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
西牧分遣所	10人	2台（消防車1・救急車1）
合計	142人	38台（消防車13・救急車9・その他16）

【現状7署所②】

令和3年4月1日現在

本部・署所名	配置人員	配置車両
消防本部	31人	11台（指揮車等4・普通車両7）
富岡消防署	40人	10台（消防車等7・救急車3）
甘楽分署	13人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
一ノ宮分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
妙義分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
下仁田消防署	11人	4台（消防車2・救急車1・連絡車1）
南牧分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
西牧分遣所	10人	2台（消防車1・救急車1）
合計	138人	39台（消防車13・救急車9・その他17）

【再編整備後4署】

本部・署名	配置人員	配置車両
消防本部	32人	10台（指令車等3・普通車両7）
富岡消防署	47人	9台（消防車等6・救急車3）
甘楽分署	23人	5台（消防車2・救急車2・連絡車1）
下仁田分署	23人	5台（消防車2・救急車2・連絡車1）
南牧分署	11人	3台（消防車1・救急車1・連絡車1）
合計	136人	32台（消防車11・救急車8・その他13）

4 消防施設の現況

当消防本部は、群馬県西部に位置し富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町の4市町村で構成される一部事務組合であり、面積488.67km²、人口72,489人（平成27年度国勢調査）を有する管轄に、1本部2署4分署1分遣所体制で消防行政を担っている。

また、当消防本部発足直後の昭和48年から昭和52年にかけて4分署1分遣所を建設してきたが、いずれの署所とも竣工後40年以上が経過し、庁舎の老朽化が著しい状態にある。

庁舎の耐震診断については、昭和56年度以前（旧耐震基準）に整備された庁舎が7庁舎のうち5庁舎あり、平成18年度から平成21年度にかけて業務委託により耐震診断を実施し、耐震化が必要な1庁舎を補修している。（表1・2参照）

表1（本部・富岡消防署管轄）

項目	所属	消防本部及び富岡消防署	甘楽分署	一ノ宮分署	妙義分署
所在地		群馬県富岡市富岡1922番地7	群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡162番地4	群馬県富岡市一ノ宮1607番地2	群馬県富岡市妙義町中里298番地1
構造		鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
延床面積（m ² ）		1635.65	265.00	265.00	228.00
敷地面積（m ² ）		3404.00	537.00	957.00	1232.00
竣工年月		昭和59年3月	昭和48年3月	昭和49年3月	昭和51年3月
耐震診断年度			平成20年度	平成21年度	平成20年度
大規模修繕等					平成19年度耐震化工事

表2 (下仁田消防署管轄)

項目 \ 所属	下仁田消防署	南牧分署	西牧分遣所
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字下小坂162番地1	群馬県甘楽郡南牧村大字大日向1039番地1	群馬県甘楽郡下仁田町大字南野牧6079番地5
構造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
延床面積 (㎡)	518.77	257.04	218.38
敷地面積 (㎡)	1585.83	359.00	550.59
竣工年月	昭和58年3月	昭和50年3月	昭和52年3月
耐震診断年度		平成20年度	平成19年度
大規模修繕等	平成26年度外壁補修工事	平成27年度外壁補修工事	

5 類似団体との比較

当消防本部の消防体制について、災害出動における割合が大多数を占める救急事案を抽出し、職員数が比較的類似している県内の他消防本部の状況と比較した。結果は表3のとおり、他の消防本部に比べて当消防本部は出動件数に対する署所数、職員数及び救急車保有台数が多く、地域住民にとっては手厚い救急体制を確保している状況といえる。

また、管轄面積において当消防本部の2倍以上を受け持つ利根沼田及び吾妻両消防本部と当消防本部の署所の配置状況を比較した。結果は図1のとおり、当消防本部は管轄面積における署所数の多さから、各所属管轄地域の重複が顕著に表れている。

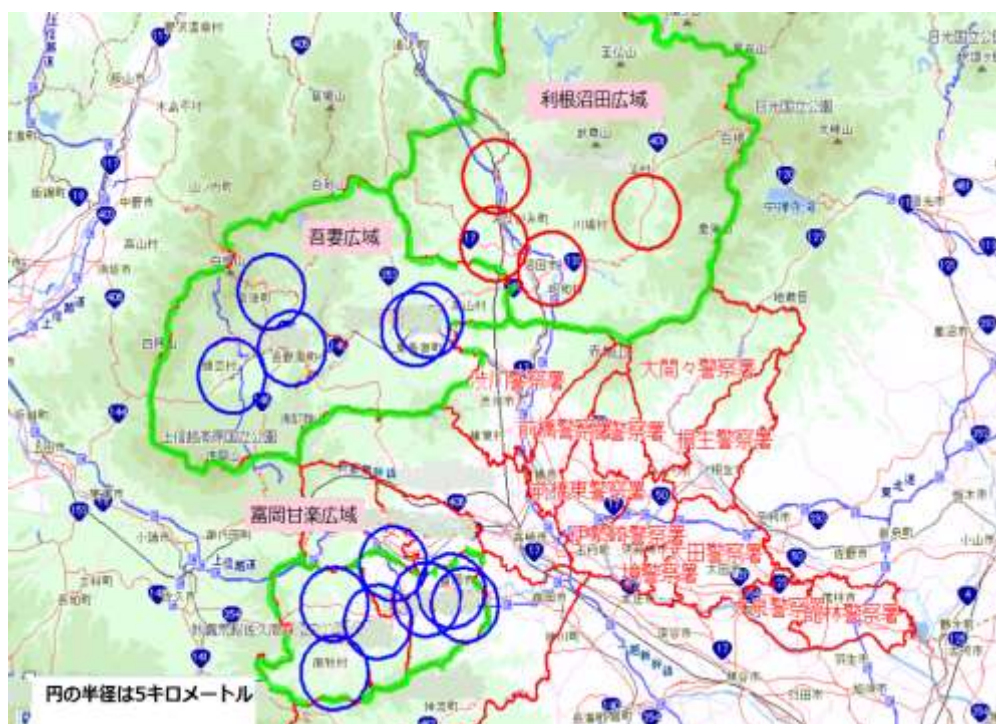
表3 (令和3年4月1日現在)

	富岡甘楽	多野藤岡	利根沼田	吾妻	渋川
管轄面積 (km ²)	488.52	534.99	1765.75	1278.27	288.86
管轄人口 (人)	72,489	92,756	83,407	56,391	113,800
署所数	7	5	4	5	5
職員数 (実員)	138	145	137	118	163
救急車数 (台)	9	8	6	5	7
救急件数 (件)	2,601	4,031	4,065	2,886	4,904

※ 管轄人口は平成27年国勢調査値、救急件数は令和2年出動数

※ 職員数(実員)は、再任用職員を除く職員数

図1 (富岡甘楽広域・利根沼田広域・吾妻広域各消防本部の署所配置状況)



6 管内人口の現況と課題

消防費の基準財政需要額、消防力の整備指針における動力消防ポンプの数等、消防行政に係る算出基礎は人口が基本となる。

昭和47年当消防本部発足時からの人口の推移を表4にまとめてみた。当消防本部では、全国平均を大幅に上回るスピードで進行する高齢化地域を管轄するために急速な少子高齢化が進む特性を有しており、令和17年には消防本部発足時と比較して約33,000人、率にして37%の急速な人口減少が予測され、現状の消防予算を維持することは、極めて困難な状況であることが予想される。

表4 (人口の推移)

(単位：人)

	昭和47年 移動人口調査	昭和60年 国勢調査	平成22年 国勢調査	平成27年 国勢調査	令和7年 推計 ※	令和17年 推計 ※
富岡市	51,167	53,768	52,070	49,746	45,940	41,040
下仁田町	17,010	14,237	8,911	7,564	6,036	4,518
南牧村	7,379	5,089	2,423	1,979	1,358	879
甘楽町	13,636	14,055	13,618	13,200	11,481	9,958
合計	89,192	87,149	77,022	72,489	64,815	56,395
指数	100	98	86	81	73	63

※ 推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(平成25年3月)

7 消防施設の管理に係る基本的な方針

平成28年の再編計画開始をもとに、消防組織再編整備計画（第1章において「本計画」という。）においては、平成29年から令和8年までの10年間を再編整備期間と定め、今後の地域情勢を見据えた消防体制への移行を実施するための署所の統合を基本とした諸施設の管理方針を以下のとおり示す。

(1) 今後の施設更新に係る費用試算

前項4で示したように、当消防本部が管理する施設は老朽化が進行していることに鑑み、今後の施設管理は全て建て替え更新を基本とする。

現状の7施設を更新した場合と、統廃合を実施し4施設への集約化を行った場合の更新費用を下記の試算条件に基づき試算し、結果を表5-1及び表5-2に示す。

試算条件

項目	内容
施設用地	施設を設置する構成市町村の費用で確保（造成まで）
施設面積の算定基準	①全国消防長会策定「消防機関の中・長期目標策定に関する報告書」記載の消防庁舎基準面積表を適用（富岡・南牧） ②甘楽分署庁舎建設工事から算出した数値（甘楽・下仁田）
更新(建て替え)単価	庁舎（RC造）：362,000円/m ² ※1 訓練塔A塔(RC造)：72,400,000円 ※2 訓練塔B塔(S造)：32,000,000円 ※3
旧施設からの変更部分	救急消毒室及び出動準備室の追加並びに仮眠室の全個室化 女性職員専用スペースの追加（仮眠室・浴室等）

※1 甘楽分署庁舎建設工事から算出した単価

※2 甘楽分署庁舎建設工事から算出した工事費（5階建て）

※3 甘楽分署庁舎付帯工事から算出した工事費（2階建て）

表5-1 現状の7施設更新費用

	配置人員	訓練塔の有無	延べ面積	建設費
消防本部	33人			
富岡消防署	42人	A塔及びB塔	2,009m ²	831,658千円
甘楽分署	13人	B塔	361m ²	162,682千円
一ノ宮分署	11人	B塔	361m ²	162,682千円
妙義分署	11人	B塔	361m ²	162,682千円
下仁田消防署	11人	B塔	361m ²	162,682千円
南牧分署	11人	B塔	361m ²	162,682千円
西牧分遣所	10人	無し	345m ²	124,890千円
合計	142人		4,159m ²	1,769,958千円

表5-2 統廃合後の4施設更新費用

	配置人員	訓練塔の有無	延べ面積	建設費
消防本部	32人			
富岡消防署	47人	A塔及びB塔	2,158㎡	885,596千円
甘楽分署	23人	B塔	641㎡	264,042千円
下仁田分署	23人	B塔	641㎡	264,042千円
南牧分署	11人	無し	345㎡	124,890千円
合計	136人		3,785㎡	1,538,570千円

上記の表のとおり、現状の7施設を更新した場合と統廃合を実施し4施設に集約した場合の経費を比較すると、建設費ベースで231,388千円の削減が見込まれる結果となっている。

(2) 施設更新スケジュール

再編計画の初年度である平成28年度を基準として、本計画の実施期間である平成29年から令和8年の10年間における、統廃合を含めた消防施設の更新スケジュールを以下のとおり示す。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
甘楽分署	→			→							甘楽分署
富岡消防署			→			→					富岡消防署
一ノ宮分署									一ノ宮分署 閉鎖		妙義分署 閉鎖
妙義分署											妙義分署 閉鎖
南牧分署						→			新南牧分署 開署		南牧分署
下仁田消防署							→				下仁田分署 開署
西牧分遣所											西牧分遣所 閉鎖

※ 平成28年度に消防組織再編委員会を設置し再編計画を開始

※ 網掛は、令和3年6月改訂の施設更新スケジュール

(3) 計画期間における財政推計

計画期間における財政推計を、構成市町村の負担金ベースで下記の表6及び表7のとおり示す。

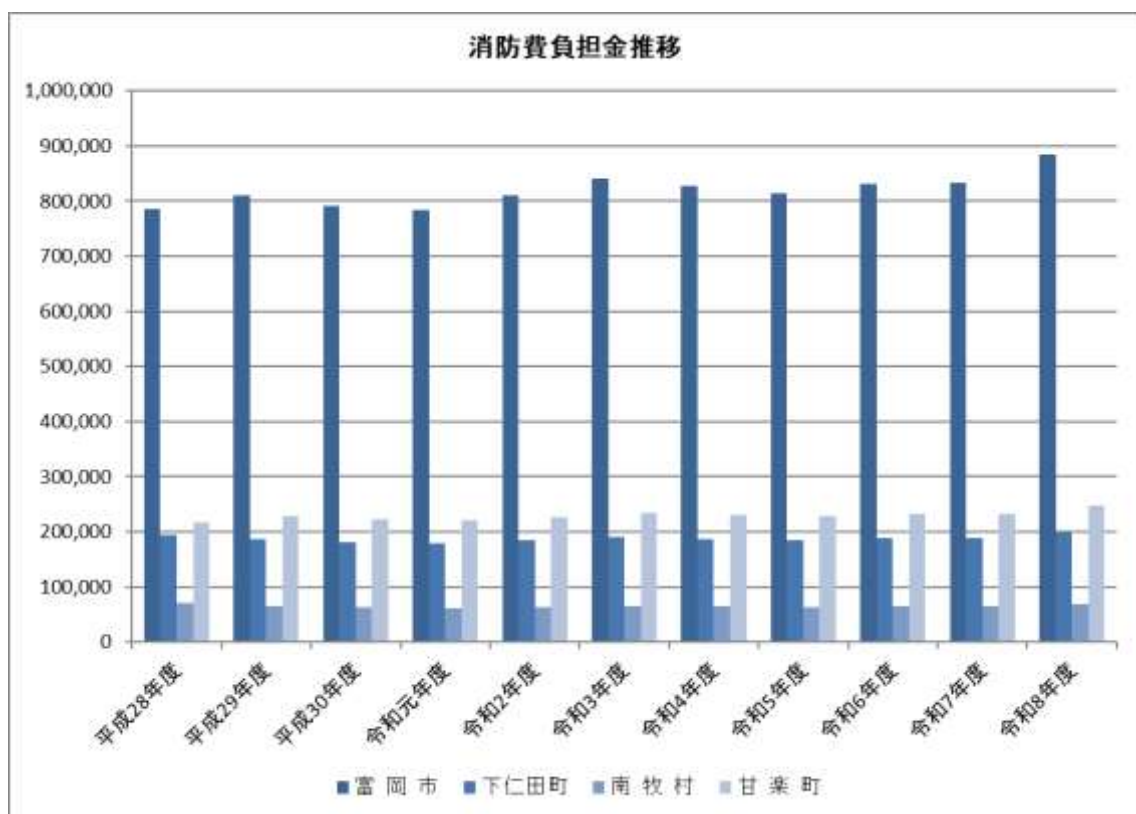
表6

(単位：千円)

	富岡市	下仁田町	南牧村	甘楽町	計	対28年度比
平成28年度	785,263	193,818	71,065	217,609	1,267,755	100.0%
平成29年度	809,832	186,229	64,394	227,677	1,288,132	101.6%
平成30年度	791,236	181,073	62,276	222,926	1,257,511	99.2%
令和元年度	783,898	179,374	61,479	221,363	1,246,114	98.3%
令和2年度	809,638	184,084	62,673	227,353	1,283,748	101.3%
令和3年度	841,104	190,415	65,858	235,224	1,332,601	105.1%
令和4年度	826,674	187,148	64,728	231,189	1,309,739	103.3%
令和5年度	815,101	184,528	63,822	227,952	1,291,403	101.9%
令和6年度	831,645	188,273	65,117	232,579	1,317,614	103.9%
令和7年度	832,953	188,570	65,220	232,945	1,319,688	104.1%
令和8年度	884,242	200,181	69,236	247,288	1,400,947	110.5%

※ 平成28年度から令和元年度までは決算額、令和2年度は決算見込、令和3年度は予算額、令和4年度以降は推測

表7



再編計画開始時の平成 28 年度を基準とした場合、各年度において消防庁舎建設工事（付帯工事等を含む。）に伴い負担金増額が予想され、また、令和 8 年度には 1 割以上の負担金増額が予想される。

このことから、従来の車両更新計画の見直しを図る等、投資的経費の支出抑制を実施し、概ね平均化した負担金の支出となるように経費節減に努めていく。

8 フォローアップの実施方針

消防本部総務課は、他課及び署所と連携しながら本計画の確実な実行に向け進捗管理を行い、必要に応じて議会や住民への情報提供等を行うこととする。

進捗管理に当たっては、P D C A（計画・実行・評価・改善）サイクルを活用して継続的な取り組みを行うとともに、P D C A サイクルによる評価や消防環境の変化に応じて適宜本計画の見直しを行いながら、当消防本部の基本計画である再編計画に随時反映させていく。

第2章 個別施設計画

1 計画の位置付け

個別施設計画（第2章においては「本計画」という。）は、消防施設等の統廃合を伴う建て替え更新などの取組みに当たっての行動計画に当たる「消防組織再編整備計画」を踏まえ、更に一步踏み込んだ具体的な施設の整備方針を示すものとなる。

国のインフラ長寿命化基本計画においては、公共施設等総合管理計画の下位に位置づけられる「個別施設毎の長寿命化計画」に相当するものとなる。

2 対象となる施設等

消防組織再編整備計画において、今後10年間で計画期間としたなかで署所の統廃合を実施し、署及び人員の再配置の実施を基本施策とした。

統廃合を実施した場合、これまでの各所属管轄区域・管轄内人口に変動が生じることから、新たに職員及び車両の配置を検討する必要がある。そのため、本計画において対象とする施設を消防庁舎に加えて、消防車両及び職員の人員配置とする。

3 計画期間

本計画の対象期間は、消防組織再編整備計画と同様に平成29年度から令和8年度までの10年間とする。

4 統廃合後の各署の配置

消防力の整備指針に示されているとおり、消防車両による延焼阻止限界時間6.5分を基準に当消防本部の地域事情及び道路状況を勘案し、各署の受け持つ管轄範囲を半径5Kmと設定して、下記のとおり庁舎施設の配置を行う予定である。



5 施設建設スケジュール

各消防庁舎施設建設におけるスケジュールは、下記のとおり予定している。

工程 本部・署名	用地の準備	設 計	建 設	開 署
甘楽分署	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
本部・富岡消防署	令和3年度	令和3・4年度	令和4・5・6年度	令和6年度
南牧分署	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
下仁田分署	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度

6 消防施設の概要

統廃合後の各消防施設の概要は以下のとおり予定している。

(1) 甘楽分署（令和2年4月1日開署）

- ア 所在地：甘楽郡甘楽町大字小川328番地1
- イ 敷地面積：概ね2,870㎡（甘楽町にて確保）
- ウ 建築面積：概ね450㎡
- エ 延床面積：概ね641㎡（別記施設概要表1参照）
- オ 構造体：庁舎棟 RC造2F 屋根部瓦葺 車庫棟 S造1F
- カ 耐震性能：構造体区分 II類 用途係数 1.25
- キ 付帯施設：訓練塔B塔 鉄骨組2F（1F部分壁面囲い）
消火栓
ホース乾燥塔（訓練塔併用）
自家給油所（簡易タンク貯蔵所）

(2) 消防本部・富岡消防署

- ア 所在地：富岡市田島33番地6付近（建設予定地）
- イ 敷地面積：概ね7,700㎡（富岡市にて確保）
- ウ 建築面積：概ね1,111㎡以下
- エ 延床面積：概ね2,158㎡以下（別記施設概要表2参照）
- オ 構造体：庁舎棟 RC造3F 車庫棟 S造1F
- カ 耐震性能：構造体区分 I類 用途係数 1.5
- キ 付帯施設：訓練塔A塔 RC造5F
訓練塔B塔 鉄骨組2F（1F部分壁面囲い）
地下式防火水槽（40t） 消火栓
ガレージ 10台分
ホース乾燥塔（訓練塔併用）
自家給油所（地下タンク貯蔵所）

(3) 南牧分署

- ア 所在地：甘楽郡南牧村（建設予定地選定中）
- イ 敷地面積：概ね800～1,000㎡（南牧村にて確保）
- ウ 建築面積：概ね246㎡以下
- エ 延床面積：概ね345㎡以下（別記施設概要表3参照）
- オ 構造体：庁舎棟 R C造またはW造2F 車庫棟 S造1F
- カ 耐震性能：構造体区分 II類 用途係数 1.25
- キ 付帯施設：地下式防火水槽（40t） 消火栓
ホース乾燥塔

(4) 下仁田分署

- ア 所在地：甘楽郡下仁田町（建設予定地選定中）
- イ 敷地面積：概ね2,000～2,500㎡（下仁田町にて確保）
- ウ 建築面積：概ね450㎡以下
- エ 延床面積：概ね641㎡以下（別記施設概要表4参照）
- オ 構造体：庁舎棟 R C造2F 車庫棟 S造1F
- カ 耐震性能：構造体区分 II類 用途係数 1.25
- キ 付帯施設：訓練塔B塔 鉄骨組2F（1F部分壁面囲い）
地下式防火水槽（40t） 消火栓
ホース乾燥塔（訓練塔併用）
自家給油所（簡易タンク貯蔵所）

施設概要表 1 (甘楽分署)

区分	名称	面積	備考
執務スペース	待機室	6 6 m ²	収納庫等含む
	会議室	3 8 m ²	救命講習の実施、各種会議用
車庫スペース	車庫	1 7 8 m ²	緊急車両 5台
	出勤準備室	1 9 m ²	回転式防火衣ロッカー設置
	救急消毒室	1 2 m ²	ストレッチャー収納洗浄部確保
	救急物品庫	9 m ²	訓練用ダミー、消毒薬品当保管
	油庫	3 m ²	非常用燃料、車両用オイル等保管
	倉庫	1 5 m ²	タイヤ、ホース、各種資機材保管
	乾燥室	4 m ²	防火衣乾燥設備設置
生活スペース	仮眠室	7 7 m ²	1 1名分
	食堂	3 8 m ²	談話室・給湯室含む
	浴室・洗面室	1 5 m ²	ユニットバス・洗面台設置
	女性施設	1 4 m ²	仮眠室・ユニットバス等設置
共通スペース	廊下・階段等	1 1 1 m ²	庇等含む
	機械室／書庫	1 8 m ²	自家発電設備・空調設備等設置
	便所	2 4 m ²	男女及び身障者用 各階
合計		6 4 1 m ²	

施設概要表 2 (消防本部・富岡消防署)

区分	名称	面積	備考
執務スペース	待機室	1 2 6 m ²	2 9 人×4 m ² 書庫・収納庫等含む
	署長室	2 5 m ²	応接スペース含む
	指揮作戦室	5 0 m ²	円卓・遠隔制御装置設置
	室内訓練室	5 0 m ²	トレーニング機器設置
車庫スペース	車庫	5 0 2 m ²	緊急車両 1 3 台分
	出動準備室	6 8 m ²	回転式防火衣ロッカー設置
	救急消毒室	1 2 m ²	ストレッチャー収納洗浄部確保
	救急物品庫	1 0 m ²	訓練用ダミー、消毒薬品当保管
	油庫	5 m ²	非常用燃料、車両用オイル等保管
	倉庫	4 0 m ²	各種資機材
	タイヤ庫	2 0 m ²	夏・冬用タイヤ交互保管
	充填庫	5 m ²	コンプレッサー設置 ボンベ保管
	乾燥室	6 m ²	防火衣乾燥設備設置
生活スペース	仮眠室	1 7 4 m ²	2 9 人×6 m ²
	食堂	6 1 m ²	3 4 人×1.5 m ² 厨房 10 m ²
	談話室	3 0 m ²	和室・押入れ
	浴室・洗面室	3 0 m ²	ユニットバス・洗面台設置
	女性施設	2 4 m ²	仮眠室×2 ユニットバス等設置
本部スペース	事務室	1 2 8 m ²	受付スペース・応接スペース確保
	消防長室	2 5 m ²	応接スペース含む
	書庫	4 0 m ²	可動式書架設置
	物品庫	5 0 m ²	事務用品、生活用品等保管
	文書室	1 5 m ²	印刷機、複合機、連絡ボックス設置
	講堂	1 6 4 m ²	映像音響装置、パーティション設置
	会議室	3 6 m ²	2 0 名程度収容
	小会議室	1 0 m ²	5 名程度収容
	休憩室	3 0 m ²	和室含む
	給湯室	1 2 m ²	食堂を設置する階以外に設置
	ロッカー室	2 0 m ²	2 5 人×0.8 m ²
共通スペース	廊下・階段等	2 5 0 m ²	車庫スペース除く庁舎面積の 2 0 %
	機械室	5 0 m ²	自家発電設備・空調設備等
	便所	9 0 m ²	男女及び身障者用 各階
合計		2, 1 5 8 m ²	

施設概要表 3 (南牧分署)

区分	名称	面積	備考
執務スペース	待機室	4 0 m ²	6 人×4 m ² 書庫・収納庫等含む
	会議室	3 0 m ²	救命講習の実施、各種会議用
車庫スペース	車庫	9 6 m ²	緊急車両 3 台
	出勤準備室	1 2 m ²	回転式防火衣ロッカー設置
	救急消毒室	1 2 m ²	ストレッチャー収納洗浄部確保
	救急物品庫	6 m ²	訓練用ダミー、消毒薬品当保管
	油庫	5 m ²	非常用燃料、車両用オイル等保管
	倉庫	1 2 m ²	タイヤ、ホース、各種資機材保管
	乾燥室	3 m ²	防火衣乾燥設備設置
生活スペース	仮眠室	3 0 m ²	5 人×6 m ²
	食堂	1 2 m ²	4 人×1.5 m ² 厨房 6 m ²
	談話室	1 4 m ²	和室・押入れ
	浴室・洗面室	1 0 m ²	ユニットバス・洗面台設置
共通スペース	廊下・階段等	3 1 m ²	車庫スペース除く庁舎面積の 1 5 %
	機械室	1 2 m ²	自家発電設備・空調設備等
	便所	2 0 m ²	男女及び身障者用 各階
合計		3 4 5 m ²	

施設概要表4（下仁田分署）

区分	名称	面積	備考
執務スペース	待機室	6 6 m ²	収納庫含む
	会議室	3 8 m ²	救命講習の実施、各種会議用
車庫スペース	車庫	1 7 8 m ²	緊急車両 5台
	出勤準備室	1 9 m ²	回転式防火衣ロッカー設置
	救急消毒室	1 2 m ²	ストレッチャー収納洗浄部確保
	救急物品庫	9 m ²	訓練用ダミー、消毒薬品当保管
	油庫	3 m ²	非常用燃料、車両用オイル等保管
	倉庫	1 5 m ²	タイヤ、ホース、各種資機材保管
	乾燥室	4 m ²	防火衣乾燥設備設置
生活スペース	仮眠室	7 7 m ²	1 1名分
	食堂	3 8 m ²	談話室・給湯室を含む
	浴室・洗面室	1 5 m ²	ユニットバス・洗面台設置
	女性施設	1 4 m ²	仮眠室・ユニットバス等設置
共通スペース	廊下・階段等	1 1 1 m ²	庇等含む
	機械室／書庫	1 8 m ²	自家発電設備・空調設備等設置
	便所	2 4 m ²	男女及び身障者用 各階
合計		6 4 1 m ²	

7 人員及び車両の再整備

署所の移転を伴う消防施設の再整備により、各署所の管轄区域及び人口に変動が生じることとなる。このため、現状の職員及び車両の配備を下記のとおり見直すことにより、消防力が適正に維持されるよう新たな人員及び車両配備をする予定である。

【令和3年4月1日現在の配備状況】

本部・署所名	人員	所有隊数	配備車両（台）
消防本部	31人	4課 総務課・予防課・ 警防課・指揮管理課	指揮隊車1・指令車3・他7
富岡消防署	40人	8隊 消火4隊・救助2隊・ 救急2隊	消防車2・化学車1・救急車3 救助工作車1・梯子車1 資材運搬車2
甘楽分署	13人	2隊（消火・救急兼務）	消防車1・救急車1・連絡車1
一ノ宮分署	11人	2隊（消火・救急兼務）	消防車1・救急車1・連絡車1
妙義分署	11人	2隊（消火・救急兼務）	消防車1・救急車1・連絡車1
下仁田消防署	11人	2隊（消火・救急兼務）	消防車2・救急車1・指令車1
南牧分署	11人	2隊（消火・救急兼務）	消防車1・救急車1・連絡車1
西牧分遣所	10人	2隊（消火・救急兼務）	消防車1・救急車1
合計	138人	4課 20隊	39台（消防車13・救急車9・他17）



【再編整備後の配備状況】

本部・署名	人員	所有隊数	配備車両（台）
消防本部	32人	4課 総務課・予防課・ 警防課・指揮管理課	指揮隊車1・指令車2 他7
富岡消防署	47人	8隊 消火4隊・救助2隊・ 救急2隊	消防車2・化学車1・救急車3 救助工作車1・梯子車1 資材運搬車1
甘楽分署	23人	4隊（消火2隊・救急2隊）	消防車2・救急車2・連絡車1
下仁田分署	23人	4隊（消火2隊・救急2隊）	消防車2・救急車2・連絡車1
南牧分署	11人	2隊（消火・救急兼務）	消防車1・救急車1・連絡車1
合計	136人	4課 18隊	32台（消防車11・救急車8・他13）